
冒険者という職業

泰然自若

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冒険者という職業

【Nコード】

N8360V

【作者名】

泰然自若

【あらすじ】

冒険者：命の危険がある依頼、遺跡の調査や地図の作成、狂暴な獣の討伐など、危険溢れる物事に自ら飛び込んで行き、そうした冒険を通して富や名声を得えようと行動する人の総称かつ職業。または単純に世界中を旅する者の事を指す場合や、賊徒や傭兵と同じ括りにいられる事も珍しくはない。冒険者ギルドによって管理されている。

なに、奢るだつて？ そいつはどういう了見だい、こちとら素行が悪いと店の亭主にため息つかれる荒くれ者で、ここいらじゃちつたあ顔の知れてるこの俺を捕まえて酒を奢るたあ、いくら馬鹿な俺でも警戒くらいはするつてもんだぞ。

ま、酒代くれるつてえなら素直に貰つてやるよ。ちよつど飲み直したいと思つてたところだつたからな。

かあ、うめえな。酒つてもんは本当に命の水だぜ、こればかりは女を抱いたつて味わえやしねえ。ほら、お前さんも飲んだらどうだ、自分の金だろうと酒にはかわりねえんだぜ？ おいおい、なかなか飲めるじゃねえか、気に入つたぜ。

お前さん、俺になんか用なんだろ？ こう言つちや悪いが、俺はそこいらの馬鹿どもよりは世界を知つてるからよ、世界の講談話も何個かこさえてる、酒のつまみがてら話してやつてもいいぜ。

ま、お前さんの用つてえのを聞いてからでかまわねえが、大抵はな、俺のところと呼んでもいねえのに来る男は話好きか、衛兵くらいなもんでよ。

どうみたつてお前さん、捕まえにだか注意しにきた衛兵には見えねえし、俺もまだ暴れてないからな。おつと、過去の出来事を掘り返すこともあいつらは平気でするんだつたな。

だからよ、勝手にお前さんの用つてもんを想像して先手を打つたつてわけよ。当ては外れたがな。

はあ？ お前はそんなことのために俺に奢るなんて言ったのか。今の若い奴はえらく羽振りが良いもんだな。にしても、何を考えているのやらってな。いまだき職なんざ、探せばいくらでもあるだろうに、職人の徒弟でにもなつて技術盗めば身体が動くまで生活に困ることも無いんじゃないか？ まあ、余計な世話だつて話だよな。

俺が冒険者かだつて、だつたな。そりゃ、こんな見てくれで帯剣している男は大抵、強盗みてえな悪事を働く賊野郎か、冒険者をやっているかのどちらかだな。俺としちゃ残念でならねえが冒険者をやってるぞ。

この店で悪事なんざ早々出来るもんじゃねえ。この店は金をすぐ隠しちまつて盗む事がちいとばかり難しい。それによ、亭主の顔をよく見てみる、意地汚そうな顰め面しかめずみの上にハゲで顎髭蓄えてよ悪い顔してるよな。俺の顔が亭主の前じゃ霞むつてもんだ。

あれでも昔は相当名の売れた冒険者だつたつていうんだからかなりのワルだつたんだろうな。そんな亭主がいるんだぜ、並みの賊野郎たちは手を出そうなんざおもわねえよ。

なんだつたら、亭主に紹介しようかい？ 俺なんかより場数は踏んでいるそうだが、あくまで自称だがな。

あん？ 俺からどうしてもお話が聞きたいつてか、いやだねえ、指名を受けるなら綺麗な女が大金積まれるかの二択つてえのが相場と決まつてるもんだぞ、何が悲しくて男の指名を受けて世間話せにやならんよ。これならまだ酔っぱらないにねつ造講談吹き込んだほうがおもしろえぞ。

ほう、えらく羽振りが良いじゃねえか、赤の他人に銀貨を軽々と

差し出すなんざ良い御身分のお方ですか？　ま、ありたがく受け取るがよ。

そうだな、率直に言うがお前さんみたいな男には向いていないと思うがな、冒険者。

まあ男が冒険者に憧れるのは俺だって否定はできねえ。だがよ、冒険者だけはおすすめはできねえな。

若い奴には冒険者が良い、若者に旅させるなんて言う奴もいるが、無責任な話だぜ？　実際、そんな事を吹き込まれた野郎が冒険者になつてるのを聞いた時は同情したもんだ、この俺ですら憐れと思つたんだからよつぽどのことだぜ？

俺から言わせればそんなことをのたまう奴はな、若い奴が嫌いなんだよ。なにが旅させる、だ。だったら隊商にでもひつ付けるかさせるだけでも良い、奴らにちよつと金渡せば笑顔で迎えてくれるわ、善人なら無償で旅させてくれるつてんだからな。それに隊商のほとんどが旅慣れてるから、恵まれている旅の案内人も一緒くた。わざわざ冒険者なんていう職業に就かせる必要はないつてもんだろ。

あれだろ、そういう奴らは冒険者に就かせて消えてほしいと思つているんだよ、好きな女が旅させたい奴に惚れてるとか、跡継ぎを追い出せば家乗っ取れるとか、理由なんざ馬鹿みたいにでてるつてもんだな。

まあ、お前さんがどうして冒険者になりたいかなんざ興味はないからよ、どうしてもなりたいていうんなら、止めえよ。

今の冒険者は傭兵と似ているようで違つてことは判つてるな？
組合も別々だし、キルド請け負う仕事も重複してるが、まあ得意分野の

違いくらい女々しい差なんだが、まあそれは良い。

もとをたどればどちらもおんなじ傭兵つちゆう戦闘で金稼いでる野郎だったんだがな、戦争が起こらない年が長く続いた時に、傭兵は仕事を失って賊紛いの傭兵が溢れだした。そうした奴らを国や領主が討伐したりするんだが、平和なときこそ領主や王は多忙らしくてな、思うように討伐が進まなかった。だったら職のない浮浪者よりも戦い慣れしている他の傭兵に依頼しようじゃないかって話になったのが最初らしいな。

そこからあれよあれよ色々な仕事が増えた、まあ要するに便利だったから仕事が回ってくるようになった。

傭兵狩りをしている傭兵はな、金さえ出せば何だってやったからな。一時期は暗殺やら人攫いも受け持つところがあってえらく問題にもなったでよ、これじゃあ賊紛いの傭兵がのさばっていたところと変わらないじゃねえか。便利だが悪事は平気で働くから困ったものだ。ならどうする。ギルドを作って正式に管理しよう。そうして出来たのが冒険者ギルドってなもんだ。

なあ、判るだろ？ もともとは悪人のたまり場だったのが冒険者だから年寄りにはみな冒険者を嫌っている。

年寄りが冒険者を嫌えばどうなる？ そうだ、村の頭脳を担っているのが年寄り連中だからな、頭が嫌いだと判断すれば村人もそれに毒されていくってわけさ。恨まれるし、何か物が無くなるとすぐに疑われる。そのくせ、冒険者は賞金稼ぎでもあり、害獣駆除や隊商の護衛、何でも来いっていう便利屋だ。誰もかれも必要としている仕事があるし、金さえ払えば大抵の仕事は片づけてくれる。

領主や国が手を伸ばさないような村や都市の雑務なんかも喜んでやる。なぜかっていうと、お前さんみたいな新人が仕事を覚えるにはそういう雑務が一番良いからだな。

恨まれて体の良い使いっぱしり扱いを受けながら、一人前の冒険

者になって行く。一人前になるってことはある程度名前が売れ始めるってことだ。仕事は指名で入ることもあれば、領主から登用の誘いだって来るから夢は広がる。果ては騎士に、なんてな。実際はそんな都合の良い話でもないからな。

なぜって、お前名前が売れるってことは妬む奴、恨む奴が増えるってことだぜ？ 収入が良くなれば金回りも良くなる。金が増えれば危険も増える。

国も便利屋の冒険者を必要だと感じているから他のギルドよりも鼻負するってもんだから、組織単位でも妬まれてるしな。

国が必要だと感じているくせに表だった支援は滅多にしなければ、追剥被害に遭うことが増えるし殺される危険も倍増ときている。酷い職業だと思っただろ？ 遺跡を探検して古代の物品を手に入れたりして、莫大な富を手に入れるとか、村を襲う獣を倒して英雄扱い、可愛い女に惚れられて困っちゃうよ。なんていう浪漫溢れる話なんざ滅多にない。あんなもん御伽噺だな、それか神とかドラゴンに遭遇するくらいの奇跡だな。

現実には女助けて、おっ、これは抱けるかもしれねえって誘いに乗れば、いきなり悲鳴挙げて襲われたとのたまい、衛兵にしょっぴかれちゃ、女の証言が通って賠償金を払えっちゃうほうが多いぞ。

悪いことはいわねえよ、やめときな。お前さんはちゃんと定職についたほうがいいぜ。お偉いさんの父だか母だかが泣きわめいて狂っちゃうぞ？ きつと殴られたり説教されたりして苦労するだけだ。

こちとら稀有な男の夢を壊すように忍びないが、善意で言ってるんだぜ？ 年長者の忠告くらい聞くくらいしても罰はあたらねえよ。

おう、一晚良く考えな。なんなら今夜ぐっすり眠って冒険者になるんざ忘れることをおすすめしたいところだ、俺の一押しだな。

あん？ 礼の言葉なんざ金にもならねえし意味もねえ。とっと有り金すべて置いて帰んな。あ？ お前さんさっきまで話聞いてただら、講義代は金貨三枚だ。はらえねえなんざ言わせねえよ。

おいおい、何怒ってんだ？ 俺はいち人生の先輩として冒険者の実情を赤裸々に語っただろうが、冒険者はもともと賊紛いのやつらだつてな、さあ、はやく有り金置いてきな。

判つただろ。冒険者は碌な職業じゃないつてな。

<了>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8360v/>

冒険者という職業

2011年10月6日11時37分発行